

「核廃絶署名」に消極的な幸山市長 「引き続き検討中」と答弁

幸山市長は、益田牧子議員の一般質問で、「日頃から核兵器廃絶や世界平和を強く願っているところであり、この度平和市長会議へ加盟する機が熟したと判断し、3月1日に平和市長会

県下の8市長・7町村長が核廃絶署名に賛同

議に正式加盟した」と、「平和市長会議」への加盟を明らかにしました。しかし、核廃絶署名への賛同には、12月議会に続き、3月議会でも、「今後とも、国内外の情勢を注視し、引き続き検討したい」と消極姿勢でした。(平和市長会議加盟認定証は、右下参照)

県下では、「平和市長会議」が、10市10町村に広がり、核廃絶を求める賛同署名に8市長(荒尾、八代、人吉、水俣、宇土、合志、宇城、天草の各市長)、7町村長に賛同し、職員へも積極的に署名を呼びかけています。

「ヒロシマ・ナガサキ議定書」とは？

平和市長会議は、2008年4月、核兵器廃絶に向け各国政府などが、遵守すべき「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を発表。2020年までに、核兵器を廃絶する道筋を示しています。核保有国が核兵器の取得禁止規定から免除されている核不拡散条約(NPT)を補完するものとして、2010年5月の「NPT再検討会議」での採択を目指しています。

「もう2ヶ月も仕事がない…仕事がほしい」 「生活ができない」との中小建設業者の声をうけとめ 住宅リフォーム助成事業の実施で

仕事と雇用を守ろう！

実施に向けての 取り組みが始まっています

住宅リフォーム助成事業(※詳細は右枠をご覧ください)の利点は、少ない予算で多くの経済効果が得られる点です。宮崎県都城市では、事業実施後5600万円の補助で、総額10億円以上のリフォーム工事が行われ、すべてが市内業者の仕事につながっています。他都市においても、札幌市議会が昨年11月に住宅リフォーム促進条例を全会一致で可決、福岡市でも条例案が議員提案されました。また、県内においても、天草市、多良木町で、リフォーム助成実施への陳情が採択されるなど、実施に向けた動きが広がっています。

住宅リフォーム 助成事業とは？

市民が住宅リフォーム工事を市内の業者に発注する場合において、その経費の一部を市が補助することで、中小建設業者への発注機会を増やし、地域経済の活性化を図ることを目的とする事業です。リフォームによる生活環境の向上とともに、経済対策の有効な施策として実施する自治体が増えています。

【控え室から】

なすまどか

父ちゃんはがんばるぞ

5月に生まれる予定の第一子が、女の子であることがわかりました。人生の中でこんなに嬉しく、わくわくしたことは今までにありません。赤ちゃん用の下着や服、ガーゼや爪切りなど、一つ一つそろえるたびに、心が温かくなります。

同時に、そろそろ名前も考え始めなければと思い、夜寝るときなどは、「あ行」から順に思いつく名前を思い浮かべています。子どもの名前は、親の思いが最も込められたものだと思います。私の名前の「円(まどか)」は、私を支えてくれる人の輪が広がってほしいという願いが込められているとのことでした。どんな思いを名前に込めるのか、議会が終わった後も眠れない夜は続きそうです。

さて、3月議会が26日に閉会します。今年10月より子ども医療費助成が、入院に限り小学校3年生まで拡大します。しかし、まだまだ他都市に比べれば、その水準は低いままで。安心して子どもを産み、育てられる熊本市に向けて、これまで以上に頑張りたいと思います。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO 701

2010年3月28日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

大型開発優先でいいのでしょうか？ 「暮らし優先」こそ市民の願い

熊本城・桜の馬場に、突然持ち上がった2億円もの「渡り通路」

必要性に、相次ぐ“疑問”の声

2月に開かれた特別委員会で初めて説明された桜の馬場の「渡り通路」案には、必要なしの意見が相次ぎました。ところが、今3月議会には2億円もの予算が提案されました。バリアフリーのためとの説明ですが、つくっても、頬当御門まで坂道をさらに歩いて登ることになり、高齢者はじめ、歩行困難な方には、シャトルバス以上の効果は得られません。

合意のない通路建設は撤回を！

熊本城・桜の馬場は、特別史跡の追加指定予定地です。渡り通路・エレベーター設置は、史跡である城壁・武者返しの景観確保を妨げます。「熊本城跡保存活用委員会」では、正式議題とはならず、資料配布と説明のみ、意見は交わされていません。議会へのまともな説明も、住民合意もないまま提案されている、「渡り通路」の計画は撤回すべきです。

見通しもないまま事業費がつぎ込まれる「花畑町再開発」

市の負担は、さらに3億円の増

12月議会で、総事業費230億円・市の負担額27億円と説明されていた花畑町再開発は、3ヶ月の間に市の負担が3億円増え、30億円となっています。

【現在の構想】

総床面積 48,000㎡

商業施設 4,000~6,500㎡
業務 12,000~17,000㎡
放送施設 5,000㎡
宿泊施設 客室200室程度
市民ホール 500~700席程度

リスクは、市の負担にも・・・

当初、劇場ホールをメインに計画されていた花畑町再開発は、劇場ホール構想が頓挫して行き詰りました。床を埋める見通しがなく、設計予算等2億円が提案されていますが、現在予定しているホテルや病院・NHKなどの、いずれかひとつでも構想からはずれば、そのリスクは市が負担することにもつながります。

さらに、再開発への補助以外に、市が建設する市民ホールの内装費用も数億円規模で必要となります。

膨らむ「中心市街地活性化基本計画」の事業費、総額 1891

再開発の市負担、3年間で60億円増

中心商店街から駅周辺までの開発が網羅された「中心市街地活性化基本計画」は、計画当初、総事業費1817億円・市の負担392億円から、3年半の間に**総事業費1891億円・市の負担452億円**へと増えています。そのほとんどが、**60億円も増えた市の負担**です。

議会の了解もなく計画変更が次々に

中心市街地活性化基本計画の変更は、「熊本市中心市街地活性化協議会」の中で審議され、議会の了解を得ずとも、計画は変えられていきます。巨額な税金をつぎ込む再開発事業の数々、その変更は、当然議会や市民への説明と了解を得て行なうべきです。

桜の馬場渡り通路2億円や花畑町再開発設計費2億円を、暮らしの予算に！

住宅リフォーム助成に1億円投資すれば、20億円の経済効果に！

地域の建設業者の方々と繰り返し要望している住宅リフォーム助成に1億円投資すれば、20億円程度の経済効果が予測されます。

小規模修繕制度の発注を増やして

中小零細業者を支援する「小規模修繕制度」は、年々改善され、昨年の発注額は約2,800万円です。1件あたりの発注額上限を50万円(現行30万円)に、発注額も1億円くらいに引き上げるべきです。

子ども医療費無料化制度の拡充 第3子保育料の無料化を！

県下すべての市町村で実施済みの第3子以降の保育料無料化の実現には1億3,000万円、子ども医療費無料化の自己負担廃止に約1億円程度が必要です。県下の市町村と比べ遅れている各施策の拡充は、合併後5年間の移行期間を過ぎた後に発生する合併町の負担増・サービス低下の解決にもつながります。

当初予算審議の予算委員会総括質疑で、上野みえこ議員は「再開発優先から、暮らし優先の予算への転換」を強く求めました。

